DIARIO No. 1 842 S. Paulo 23 de Março de 1939 NOTICIAS DO BRASIL Redacção e Administração Rua Fagundes, 196 - Caixa, H

伯剌西爾時報
發行所 伯剌西爾時報社
社長 黒石清作 Director Masahiro Sameshima
購讀料
新聞 一ヶ年 60$000
雜誌 一ヶ年 30$000
廣告料
新聞 1 Cent. 2$000
雜誌 1 Pagina 80$000

公明正大日本の態度
青島大港を開放
第三國の權益尊重の聲明
加藤青島總領事より

【青島廿三日同盟】青島大港は來る廿五日より第三國船に對して開放することになつたので加藤青島總領事は本日次の如き聲明を發表した
日本政府は今次事變を通じ作戰上多大の不利を忍んでも能ふ限り第三國の權益を尊重し來つたことは周知の事實であるが、今般更に第三國の平和的通商を尊重する意味に於いて幾多の困難を排し三月廿九日より第三國船に對して當青島大港の解放を斷行することにしたのである、第三國側に於いては大港問題に就き或は第三國通商に對する差別的待遇乃至壓迫と曲解し、或は支那の門戸を閉鎖するが如く誤解した者も少くなかつたのは誠に遺憾に堪へざるところである、大港使用制限は全く軍事上の必要以外に何等他意なく殊に第三國の經濟的權益を犯し若しくは平和的通商を阻害せんとする如き意向は毛頭無かつたのである
今回の措置によつても帝國が如何に第三國の平和的通商を尊重するか、又帝國政府及び官憲が常にあらゆる問題に就き如何に公正なる態度に出てゐるかは諒解する事が出來るであらう、列國に於いては帝國の眞意を諒解し東亞興隆の一つの途であり又帝國の不動の國策である、東亞新秩序の建設に積極的に協力することを切望し又期待するものである

陸鷲ほう翼連れ
大擧江南、修水に猛襲
敵退路遮斷に偉功

【〇〇基地廿二日同盟】我陸鷲の荒鷲編隊群は廿一日朝來數回に亘り大擧江南の新戰場に飛び贛城進駐部隊と密接なる協力をなしつゝ敵陣地に猛爆を加へる一方潰走中の敵に對し必中の巨彈を見舞ひ痛果敢な地上掃射を行つて多大なる戰果を收めた、又他の編隊群は敵の修水南岸第三線及び第二線と敵數深く襲ひ掛り集結中の敵後續部隊及び軍需品其他を爆撃し又沼水河の安義附近一帶の渡河點に集結せる敵の退路遮斷に多大の戰果を收めた

皇軍早くも錢塘江占領

【杭州廿二日同盟】廿一日突如行動を開始した〇〇部隊は今日早くも錢塘江岸の長沙塘を占領引續き戰果擴大中で廿二日正午までの敵損害遺棄屍体二百六十

事變後壯丁歸村による
勞力過剩に萬全の策

【東京廿三日同盟】廿三日の貴族院本會議は午前十時十七分開會直ちに日程に入り

一、昭和十二年度第一豫備金を一括上提、石渡藏相の說明あつて後、委員附託とし次いで
一、昭和十二年度第一豫備金支出の件、該豫備金支出に關する六件

變轉歐亞の情勢に對處
四時間に亘る
五相重大協議
帝國政府緊張す

【東京廿三日同盟】最近の支那並に歐洲の諸情勢及びソヴエット問題を中心に政府內に相當活潑な動きがあり最近數次に亘つて五相會議を開く一方有田外相は廿一日も平沼首相を首相官邸に訪問連々協議を重ねたが廿二日午後八時十分より首相官邸に五相會議を開催平沼首相、有田外相、板垣陸相、米內海相、石渡藏相出席最近の情勢を基礎として我方の態度につき四時間十分に亘つて重要意見の交換を遂げ廿三日午前〇時廿分になつて漸く散會し會議は廿三日以降も繼續する豫定である

ボロ工場の經營改善
大量砂糖南支へ供給
廣東の東莞製糖工場操業開始

【廣東廿三日同盟】部隊前面の東省政府經營の東莞製糖工場は優秀な設備を誇しくるたが、資金方法の拙劣のため廣東の沈滯を極めるほど大量に製糖には手もつけず、專ら一部を徒らに密輸商の暴利を貪つてゐるに委ねてゐたが、廣東の日支南支常局はこれが爲業に關し協議中のところ、軍備も完了したので昨日就任轉を終了直ちに新興南支の關

半歲山附近
二萬二千の敵擊攘

【〇〇廿三日同盟】武漢東方約五里の半歲山附近で我が膠着、岐友、野口及び池田の各部隊は約二萬二千の大部隊と百五十、國產品チエコ機銃四十四丁、小銃四百、連射砲一

日伊親善更に强化
兩國文化協定調印終る

【東京廿三日同盟】日伊文化協定調印と共に外務省では文化振興の具體的諸事項に關し次の如き聲明を發表した
日伊間に文化協力に關する協定調印せられ、兩國の親善が更に繁榮を加へることゝなつたのは同慶の至りである、然して本協定に記載されてある諸種の文化的協力に關する問題の中兩國の權限ある官憲は取り敢へず左の諸事項を協議決定することゝなつてゐる
第一、兩締約國の一方より提案せらるべき文化的協力に關する新しき企畫の設置
第二、兩國の文化的振興に資すべき新しき文化使節の設置及び既存の使節の擴充
第三、本協定の指導精神に準據し前項の企畫の實施に關し必要なる措置を講ずること
第四、政府派遣留學生に對する便宜供與
第五、教授團に學生交換の增進

汪の身邊警戒
愈よ嚴重を極む
犯人頑强に口を緘す

【香港廿三日同盟】UP「ハノイ電に依れば兇彈に倒れた曾仲鳴夫人は胸部貫通傷で依然危篤の狀態にあり、尚ほ氣づかれてゐる傷逮捕された三名の犯人は佛印當局の取調べに對し、汪精衞はどうしても殺さしまはねばならぬと口走つてゐるのみで背後關係其他に就いては依然頑として口を割らず又これにより汪一身邊警戒は益々嚴重を極めてゐる

汪の獨逸通商
追加條約調印
來る二十四日

【東京廿三日ラヂオ】昨年五月十二日調印を了した獨伊國とドイツとの通商條約は其後續正、追加する必要あり該條約文中の數ヶ所に就き獨逸側全權ヒヨー水河岸にして修水ヒヨー水間數里に亘る敵の縱深陣地を全く我の手に到着し修水盛河後續二萬餘

租界の返還は
外國も一緒
貴院豫算總會で外相の答辯

五分開會、井上匡四郎子（研究）、堀切武夫男（公正）より

【東京廿三日同盟】廿二日の貴族院豫算總會は午前十時二十分開會、有田外相は

一、軍馬資源保護法案
一、種馬統制法案
一、競馬法の臨時特例に關する法律案

を審議最後に通り可決後一、軍需工業動員法中改正の件を議題として

下村宏氏（研究）質問來る廿四日の本會議に於いて

櫻內幸雄氏（政友）質問

の豫定

英米共同戰線
援蔣の假面を剝ぐ
（二）

ために戰爭すること至れり盡くせりである。しかるに、つゝ〳〵支那內部に動きつゝある客觀的狀勢を瞥めると、確に英國でも、そう〳〵何時までも、夢を見てゐる譯にも行かない。ことに、薄ら氣がつかざるを得ない。それは支那內部の動搖しつゝある反蔣熱、所謂反共抗俄熱、所謂反共抗俄熱、所謂反共抗俄

社說

無抵抗主義の大英國

一

無抵抗主義の本家本元は英國民族である丈に、英國は何國の國よりも其の味をヨリ多く占てゐる。然らば印度革命家の個用手段とする抵抗主義とは如何なるものかと云ふに、彼等は英國軍隊から一切の武器を取上げられ、更に最後の鮮血まで受けてゐる苛めに戰ふに力なく、止むを得ず押込められた監獄内で餓死の運命に甘んずるにある。

二

と、云つて吾人は、英國が其筆法を以つて印度人を虐殺するの不當はないが、今次の獨逸中國進出に當たるチエツコ併合に對し、英國政府は最も正しくミユンヘン協定破棄となりとして獨逸に宣戰を布告しながら、只だ口先だけの非難であつて、何等武力的抵抗するの態度を示さざるは、其國に何か考へのあつての事ではないか。餘にも其國民に、吾人は却つて疑惑をさざるを得ないのだ

三

尤も其後の情勢電一擲れば英國はミユンヘン協定破棄となりとして獨逸の言葉を棚に上げ、佛蘇支持のもとに反侵略宣言を發表するだの、ポーランドやルーマニヤ等に對し新保證を作るだのと消極外交を擴張はしてゐるから、英國の腰の底には成るべく爭ひを避け、金さへ出むなら戰爭も國に金を貸し、金の力一味方に引き入れようと陰策ある事もなくはないが、英國は此の歐洲大戰に懲り、勝ても得かいかず敗ければ大損となるのであるから、金で始末の着くなら戰爭したくないと云ふ氣持が唯一と頼むメーメル地方返還要求に對し二十二日遂にドイツの要求を容れることに決定し右に關するコミユニケを發表した

【コウノ二十二日同盟】リトワユヤ政府が唯一と頼むメーメル地方返還要求に對し二十二日遂にドイツの要求を容れることに決定し右に關するコミユニケを發表した

【コウノ二十二日U.P.】獨逸の關係措置に英佛が大體となつて屈服した事は、英國の威信を失墜すること甚だしく、英國の國際的地位は著しく低下した

【倫敦廿二日同盟】ロンドン發表直ちにバツキンガム宮殿に伺候したブラン佛大統領夫妻は廿二日午前には隨員一同と共に歸國の途に就いた

日本政府から「愛國心と道義心に訴ふ」とて〜
海外邦人に〝圓を護れ〟！

海外に円紙幣が大量に流出する事は、海外における円價値を低落せしめ、円爲替とは別個に暴落し、戰時下國の對外爲替に重大影響を及ぼし爲替管理政策樹立に多大なる支障を來すので日本政府は取締令を發し、円の海外流出を極力阻止する方針に出てゐるが、日本通貨は大體獨逸の場合に容易な處、警察當局の目を偸んで不正搬出が行はれしかも本邦は先年の金輸出再禁止當時の所謂神賣に似た非愛國的性質のものもあり、從來海外から在外円價が円爲替から離れて著しく下落して行くので當局は取締を嚴にする事に決し、更に右の趣を理解し、在外民の愛國心に訴へその協力を得つゝ昨日外務省から總領事館に左の如き訓電があつた

外務省電

海外より歸國する邦人の携帶する紙幣に關し政府は外流出防止の見地より差し當り歸國に際し報告書を提出せしめ、當該紙幣の出所を探究するの方法を取る事に決し、同時に海外在留邦人の道義心と愛國心に訴へて抑制を計る樣在留本邦人其他に對し右の意味に於て協力を求めらるゝ樣致されたき度し

追而歸多額の円紙幣の買入受入又は携帶歸國の事實を知らるゝ際には速かに報告せらるゝ樣致されたき度し

〝松島〟大好きです〟
事變下サヨナラの辯
イタリーへ赴任の伯國大使

駐日ブラジル大使として三年間東京において日伯親善に努力してゐたブラジル大使ペドロ・レオン。ヴエローゾ氏（五二）は防共の盟邦イタリーへ轉任することになり、去る九日横濱出航の龍田丸で思ひ出の日本をあとにアメリカ經由故國ブラジルへもたちよらずローマへ赴任したが出發の際同氏夫妻は日本刀や種が島統の贈られた應接一つ一つ氏のやうにかたつた日本へ赴任來各方面のご聞情と御援助に依て無事大役を果し得ました、昭和十年十一月お國では一番よい季節にやつて來たそれからわづか三年あまりですが、その間に支那事變が勃發し非常時日本の偉大なる國民を目前に見せていただきましたことは、私の二十八年の外交官生活中でいや私一生涯中一番有意義な三年間だつたと思つてをります、うつくしい日本はほとんど全國を妻と一しよに旅行しました、私は日本畫のやうな松島が一番すきで妻は古典的おちつきをもつた京都をこんでをります二人とも揃つておくにの美術品い上に世界各國をあるいて見て心をひかれるものはありません、また日本へかへつて來る日を朝つてゐます妻も今年の櫻を見に去るのが淋しいと言つてゐます

（寫眞はヴエローゾ大使）

の画映の題問
る觀を寫試

運動場を建設
華々しかつた過去へ!!
奮起したパラダワス青年

皆つては非常な充實ぶりを見せてゐたパラダワス運動界だが最近「これではイカン」と振起した同市南部會では全員協力して舊日會所有地に運動場を建設することに決し、はなばなしくカムバック工作を開始した

因に今年度新役員氏名は左の通りである

會長　鵜見善久治
副會長　櫻井辰之助
會計　岡島定士

息もつかせぬ迫力
全篇感激に滿つ
讀へん哉五人の斥候兵

昨年八月八日伊太利ベニスにおい開催された國際映畫コンクールに五十三ケ國より二百四十三本の出品あつたが、この數多い中より選ばれて遂に二等の榮譽をかち得た問題の傑作映畫「五人の斥候兵」は内務省警保局より軍事映畫中の最高傑作として極度に推賞を全覺され、又日活根岸所長以下監督、俳優等は金一封を贈られるしまおけに斡旋局長の名の下に全國的推薦までされて大いに面目を施した正直の所此の映畫はそれだけの價値は十分にある　こゝには安價な感情もなければ淺手な押し賣りも無い、先づ物語りは一部落を占領した岡田部隊が皇軍に向つて君ケ代ラッパの吹奏裡に進撃する厳粛な場面から初まる、其處から五人の斥候兵が間諜に派遣されて歸るまでのいはゞちん中スケッチなのだが田阪兵隊（監督）の粘り强い剛直なタッチは小杉以下の適期的名演技の撰けをかりて殆ど形容に絶した迫力を結果してゐる、かくして田阪監督は日本一流のレッテルを自他共に許容され多摩川はその企劃のスケールにおいてつひに日本一の譽を授けられ、その功績や大と謂ふべきである、俳はともあれ傑作映畫に漏えてゐる、在佰映畫ファンに取つて久しぶりに溜飲の下る名篇である、讀者へん哉「五人の斥候兵」

未來へ!!!
スタートを切る

パストス市街地ペイネーラが丘に續え立つ白堊の學舎は去月十七日附け驗那學校として三月十日、十一日の兩日に亘つて行はれた入學試驗には日伯學童の受驗生三十九名に達し内日出度入學の榮冠を獲たるもの三十五名であつた

◇　◇

タートを切るに至つたが三月十日、十一日の兩日に亘つて行はれた入學試驗には日伯學童の受驗生三十九名に達し内日出度入學の榮冠を獲たるもの三十五名であつた

バストス中學校
入學試驗終る
第一回入學生卅五名

◇　◇

聖州當局、派遣費を補助
活氣づいた陸上聯盟
〝精銳主義〟を捨て〝質より量〟に轉向
選ばれるか？牧野と龜山

聖州當局は南米オリンピック大會選手派遣費調達になやむ聖州陸聯に對し、補助金を支出することに昨日決定した、これがため俄然活氣づいた陸聯では從來の〝精銳主義〟をすてゝ〝質より量〟に轉向、多數選手を派遣することになつたも樣である、この結果石田君をのぞき、いまなほ雜色のあつた那人選手、島田、牧野、龜君はあるひは來る廿五、六兩日行はれるさい終選選會に於て成績が余ほど悪くないかぎり擧ある代表に選ばれるのではないかと見られるに至つたなほ最終選會當日はアデマル・バーロス州執政官も臨席するはずである

百キロ突破!!
サントス日會
銀紙報國運動

サントス日會振興會の銀紙報國運動は日增に盛んになりつゝあるが去る二月節七回分として拾八キロ送付し、來る二十六日出發のぶえのす丸に積込を乞ふ

二月二十三日

サンパウロ日本人會

二億四千八百万ロキ見當
昨年度・繰綿取引額

聖州棉花察情所から農務省へ報告した所に依れば聖州昨年度繰綿の取引額は二億四千五百万キロ見當と云はれる、同じく昨年の聖州棉花取引額は三十六万八千アルケール（一アルケール＝八十八万三千ケール）で此の莫大なる取引額の檢種子で、その量三十キロ入俵で、五十二万三千俵即ち一千五百六十九万キロである

笑へぬ喜劇
お灸をすえられた親心
娘の訴へ聞いて怒つた署長
「氣狂ひ娘と父」物語

お灸をすえられた親心——氣が狂つた娘の病狀をお灸をすえて癒さうとおもつたパイとマイがありました、娘は〝熱い〟と悲鳴をあげました、そして驚察に逃げて行きました、呼出された親父は叱られました「この〝笑へぬ喜劇〟は茲から幕が開き「聖市總領事館の巻」でチヨンになります

「パパイがケイマした」との訴へに「とんでもない親があればあるものだ」とビックリしたサンタオリンピアの警察署長さん早速彼女の父橋田欣五郎（假名）をよび寄せ事情を聽取したが言語不通で陳述取れず、さては實例をもて見ろといふことになつたが橋田さんはおもむろに線香とモグサをとり出し實演のうち自分の病狀？をないて訴へたが署長の心證を好てんさせることができなかつたとみえ、どうやう家に歸ることだけはゆるされなかつた。其の後幾度となく呼び出され形ばかりだんだん不利におもいつて行くばかり悲しまつた橋田さんの同地

雨、雨降れ〳〵
セッカに惱む北伯
皮肉……ミナスは大雨

現在セッカにいじめられる北伯方面は最近特にひどい、北大河のラーセスでは二百三日間一滴の降雨もなく近年のセッカ最高記錄を作つたが、其次には同州のセーラカイアードの百六十二日、パライバ州サンタルジアの百七十日等が有名な方、そうかと思ふと逆にミナス州ジョンセイソン、又ミナス州ラバロ、ディアマンチーナ方面では十四日も降りつゞき近年の降雨最高記錄を作つたといふ人もあるのだしなにもにげかくれせず正しく裁きを受けたがいゝと悲々とさとされ引下つて行つた

昨農年に於ける
伯國の砂糖生産高
千六百八十六万俵

去る二月末に終つた一九三八三九農年に於ける伯國の砂糖生産高は一千六百八十六万七千五百九十八俵に達してゐるが最大生産州はペルナンブコで四百七十三万八千百八十八俵を出してゐるから總生産の三〇%を占てゐる譯である、第二位は聖州だがつゞいて四百四十八万一千俵余りだからペルナンブコ州の殆ど半分である、第三位はミナスで二百五十七万千俵余りで第四位はパライバ州の百五十万俵である

印刷物は……
廉價、迅速の
時報社へ！

雜記帳

▲サントス日本人會では來る廿九日、商ホテルに於て桑島大使の歡送會を開催することになつた

▲聖市俳人の集ひ「三水會」では來月七日オザスコの栗林へ吟行會を催す

▲聖市電發列車で同地に呼ぶが同好者多數の參加を希望してゐる

▲サントス那人に告ぐ！最近次の如き人相のタマゴ屋の青年が市内青木本屋面の親戚だと騙り屢はつてゐる、中山貫市、痩し三十二、三才、鳥打帽をかぶり痩形、面長、身長五尺一寸位

▲猛烈連に夢中になれば元も子も無くする事は天下の通り相だが、撥をすればする程それこそ女房を貰に置いても勝たくなるのが此の道で、そこをつけこんでリオの賭博場では一日父は一時間十數の利息で金貸してゐた文字通の高利貸が此ほど繁榮へアけられた

▲敗けるばかりが能ちやないと奮起したパウルーの青年野球チームは今度から猛練習を開始することになつた、その意氣だ！

◆パウルー縣高士植民地の青年陸上競技大會は十九日擧行された

◎野球、陸上競技、相撲などが非常な賑はひを見せてゐるのに比し最も大衆性のあるラグビーがテンで顧みられぬのは不しぎとされてゐるが今度勝平商店では新たにラグビーチームが生れたらボールを寄贈するといつてゐる

◎パウルーのかば彼芳賀仁吉氏は富士植民地と隣接せる地帶四白アカケールの處女林の賣出しをはじめたが非常な人氣をよび觀衆か押すな〳〵の盛況ぶりである

重要商品市況

○單位ミル　三月廿三日

爲替　リブレ　一二、二〇〇
對米　一八、八五
對日　一八、八五
○珈琲
サントス　四級　買値　一八、八〇〇
五級　賣値　一七、五〇
○棉花四級　一四、〇〇
五級　一三、〇〇
○小麥粉
一級　一二、〇〇〇
二級　一一、〇〇〇
○砂糖　以下二〇キロ入
極上　六、〇〇〇
上等　五、一〇〇
○エジョン
エスペシアール　五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一一〇、一一一、一一二、一一三、一一四、一一五、一一六、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二二、一二三、一二四、一二五、一二六、一二七、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二

感のにぶい者は駄目
長蛇を逸したはなし

色感は感のにぶい者は駄目ですね。男はそりや押しの一手でどんなにはつきりとで自分の思つた事が言へるのですが女は内氣なのが本性ですからさうはつきりと云へません。厭だと斷られてゐるのにそれと感づかないのは幸福ですが好きだと相手がいつてゐるのにそれがわからずに後で、アゝさうか、氣のついた程殘念なことはないと斷言きして、Kは次の如く語るのでした。

現に私なんかその感のにぶい方で……

それに又私なんか女が慕れてくれるものかとも思つてゐないからなんですが、今だに殘念なことがあります。

友達と二人で或女に慕れたんです。彼女は現に幸福な家庭のマダムにおさまつてますから職業や本名を言ふことは出來ませんが、どういふ種類の女かは讀下私が申上るのを斷念して下さい。

友達といふのが押しの強い手の早い方、私はお孜じ、樣に極心臟の弱い、總てにのろいスローモーの方、と來ると勝負になりませんが、不思議とこれが勝負になつたんですね二人でせつせと通ひましたが女はなか〳〵何方へも荷を下しません。といつて私達兩方とも嫌はれてゐる模樣もないんです。或時その女〻私と二人きりになつたことがありました。二人の隔分酒をのみまして私は酒の勢ひを借りて友達と自分とどつちが好きだといひました。

女は友達の方からはつきり話のあつたことを打ち明けました。そしてこんなことを言ひました。

"私ね、あなたとあるツていつて斷つちやつたの"

……といふことは、あなたならゝいふことなんでせう。これを私が氣が付かないんですその時はもう他人のものになつてゐました。女はその時"この馬鹿野郎"と思つたでせうね。

"私あなたとあるつて言つちやつたのよ"

とも女が言つた場合はうつかりしちやいけませんよ。

(讀者)便〻檢査をしてゐたゞけば腦については御文面だけでは判り兼ます

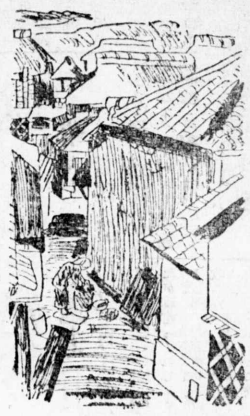
相談
戀心は抑へ切れぬ
たゞ體質が心配

私は本年二十八才になります縁期なんなつて居ります。然し私は體質が縁婚に依つて將來悲むべき時期の來ることを恐れてをりますが、青年期に於ける私の戀愛は抑へきれぬのであります。其内に外人娘と戀愛關係が出來てのでありますが、縁兒が縁點的大反對であります。夫れかと云つて日本娘に縁婚を申込んでも前述の通りな體質ですから先方から拒絶せられる。外人娘と縁婚は親が許して呉れず一生獨身生活も寂念と思ひますから、如何なる決心を以てすべきか公平なる御判斷と御教導を願ひます。

(ハンモン生)

文面に依ると兒の體質が縁婚に依つて將來悲むべき時期が來ることを恐れるとありますが、たゞこれだけでは甚だ要領を得ないのです。腺病質のためなのか肺病などのやうな縁婚生活に耐へ體質なのか、若しそれだとすれば外人娘と縁婚しても縁果は同じ事なるのです、日本娘一兒の病氣を知つてゐるので、縁婚を拒絶するが外人娘は知らないから縁婚して呉れるのだとも取れるのです、いづれにしても縁婚して夫婦生活に入る事は自ら墓穴を掘るに等しく將來悲むべき縁果になると思ひます。何事になつたから是非縁婚せねばならぬと云ふ事はありません。未だ廿八才の若さですから戀愛の人娘との戀愛關係を精算して兄の體を健全なものにするために努力すべきです。縁婚問題は身體を健康なものにしてからの後に考へるべきだと思ひます。次に外人との國際縁婚に關しては體質も又よろしくの實例を耳にしてをりますので、兄の納得の行くやうに實例をあげて擧げしたいのですが、醫化關係のやかましい折柄實を込んだ批評はせぬ事に致します只縁りに一言附け加へたいことは縁婚を度外視して縁婚生活は成り立たぬものであると同時に健康の伴はない縁婚生活は悲慘の二字に縁ることを申上げておきます

家庭
うんとたべよ
榮養分が多い
豆腐や煮豆の比ではない



黄粉はむかしから團子やおはぎに使用されてゐますが、分析研究の結果これがまた非常なえいよう分に富み、おなじ大豆からつくられた豆腐、煮マメなどに比してはるかに勝つてゐることが立證されたわけです。こと都會生活者にとつては黄粉こそ安價で最良のえいよう分とのことです黄粉をたべませう。

何故食べぬ

日本人がなぜもつと黄粉をたべないか不思議です。現在は簡單な家内工業的に生産されるだけでなく、將來は工場的生産してうんとたべてはしいものです。印度人をはじめ(職人はえゝよう不そくでふくらはぎ等は實にはそくなつてゐますが、これを常用すれば大いに改善されませうが、ありますが、しかし大體に攝ると——吸收されない場合は大切です。

水を飲み過ぎるとからだが疲れる

暑い〳〵とソルベツテやレフレスコを飲むとお腹をこはさないでも體を非常に疲らせます。昨日今日のだるいこと、くた〳〵に疲れるといふことの原因の一つは、この水の飲みすぎが入つてゐません。先づ水といふものが體内に入つてどういふ働きをするか、一つには榮養物運び入れと老廢物の持出し(小汗尿等)體内で醱化燃燒して體温を出す關合にも必要欠く可からざるもの、又食物の消化にも水がなくては出來ないといふものでなくてはならない大切なものです。

御存じですか?
インクのしみ

衣服にインクのつたときは、直ちにその部分を牛乳の中へよく漫してから、石鹸であらふとすこしも痕跡がのこらずきれいにおちます。

衛生顧問
膀胱部に腫れ

慢性膀胱カタルの者は、一年位治療を受けて居りますが全快致しません、のみならず膀胱部に腫を來し、今日ではます〳〵大するばかりです。醫師も受けたら癌病が判りませうから

良い子に導く急所
子供の上手な叱り方 (1)

嬉い子供も多少毎つゝ歩いたりするの行ひは癪と本能だけの現れで、すべての惡事が出來るやうになると、實に勝手放題の事をして全く油斷も障もつゝものではありません。それが次第大きくなるに從ひ惡い事との區別が分るやうになつて來ます。例へば自分の物と他人の物との區別が分るやうになり、他人の物を盜むのは惡いことだといふ事などが敎へられて分つてきますから叱るといふのは、かうした子供の成長の過程の間に何か惡い事をした時、その事が惡い事であると覺らせ、同じ事を二度、度と繰返させないやうにするのが目的なのです。

若)しまだ少しも是非善惡の觀念が出來上つてゐないやうな場合には、同じ叱なにしても

「どうしてそんな惡い事をするのですか」

など、頭ごなしに怒鳴りつけるのは即逆つてをります。そんな風に怒るよりも先に一、その事が何故ではいけない惡い事であるかといふ理由を、子供には納得がゆく樣に親切に敎へた後

「だから今度からは、かういふ惡い事はするものではありませんよ」

といふ風に訓します。でないと、いきなり怒鳴られたのでは、子供にはなんの爲にそんなにドナられるのか分りませんかい、叱つてもなんの効果もないことになり勝ちです。

一)般に感情的叱りさへするやうにな、無闇に口八釜しく叱りすぎる傾きがありますが、非常に考へものです。

「ホラ、又始まつた」

といふ風に子供の方で、お叱言に慣れて馬耳東風するやうではその効果はありません。まはその効果はありません。また反對に、あまり叱りすぎるのも多少考へものです。

例)初めて成功した米國のリンドバーグのお母さんは子供が小さい時から決して

「あれをしてはいけない、これをしてはいけない」

といふやうな

「ドント(…てはいけない)」

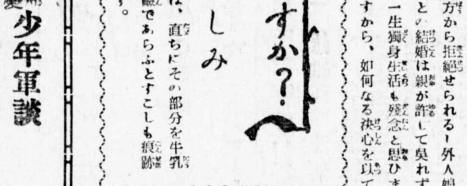
といふ言葉を使つて叱つたことは殆どなかつたと申してをりますが、非常に味ふべき言葉だと思ひます。我が國の古歌にも

可愛くば二つ叱つて三つ褒めて

五つ敎へて良き人にせよ

といふのがあります、兎角口喧しく、度々叱りすぎるお母さん方には、精しく味はつていただきたい言葉であります。

峠の女性 (208)
山中峯太郎作
木原芳樹画



人間の心(四)

電話

「精次さん! お郎、工場に火をつけたつて、そんなことをしたのだ。調査の結果は、放火だと斷定されてゐる。貴樣はその罰を聞きながら、納屋で默つてゐたといふ。そんなことが考へられるか! しかも、最初に火を發見したのは貴樣だといふ發見した時は遲すぎてゐたのだ。貴樣はなぜ、火の音を聞いて初めに、納屋を飛び出して行かなかつたのか? この罰を明白に陳述しろ!」

「……」

精次は默つてしまつた。

信三は、精次の顏を見上げまい、

「精次さん! 言譯をしねエ! よウ!」

と、下から請寄せて言つた

「厚顏ヲ!」

署長は一喝した。

「全く火の氣のない所から出火したのだ。調査の結果は、放火だと斷定されてゐる。貴樣はその罰を聞きながら、納屋で默つてゐたといふ。そんなことが考へられるか! しかも、最初に火を發見したのは貴樣だといふ發見した時は遲すぎてゐたのだ。貴樣はなぜ、火の音を聞いて初めに、納屋を飛び出して行かなかつたのか? この罰を明白に陳述しろ!」

「……」

精次は默つてしまつた。

信三は、精次の顏を見上げまい、

「精次さん! 言譯をしねエ! よウ!」

と、下から請寄せて言つた

この時、署長の机の上にある卓上電話が、ジリ〳〵と鳴りだした。

署長は、受話機を耳にあてると、

「さうです、ハア?」

と、太い眉をあげた。

「恐れ入りますけれど、署長さまに、何うぞ!」

と、相手の女の聲は、いそがしく受話機にひびいた。

「わたしが署長ぢやが、あなたは?」

と、署長は眉をひそめた。

「ま! 署長さまでいらつしやいますか?」

「さうです。間違ひはない」

「まあそれは、こちらは綱川巳作の郎でございますが、……」

「はうそれで、あなたは?」

「わたくし、郎と申します郎子でございますけれど、……」

「えッ? なに? 御令嬢ですか?」

署長はまたも眉を上げた。

平頂山上の死闘
逆襲!! 無念やられた!

愛する部下の最後の雄叫が聞こえてくるたびに中尉の胸は、ちぎれるやうだ、

「うゝん〳〵……」

中尉は、顏がみしながら、しばらく身もだえしてゐたが、とう〳〵軍刀を杖によろ〳〵とたちあがつた。

額の傷からは、タラ〳〵とちが流れ出した。をりから、霧の間を通して、一團の敵兵が銃劍や、青龍刀をふりかざして、みかの陣地に突入して來るすがたが見えた。

「うむ、小癪なッ……」

中尉は身の重傷もわすれたかのやうに、ツツツと岡をはしつて敵の眞只中にをどりこんだ。

「えいッ!」

支那軍談

少年軍談 一番乘り 武勇傳

(三十四)

劍……

道二段の腕の冴へを見てとり、〳〵軍刀を杖によろ〳〵とたちあがつた。

額の傷からは、タラ〳〵とちが流れ出した。をりから、霧の間を通して、一團の敵兵が銃劍や、青龍刀をふりかざして、みかの陣地に突入して來るすがたが見えた。

「うむ、小癪なッ……」

中尉は身の重傷もわすれたかのやうに、ツツツと岡をはしつて敵の眞只中にをどりこんだ。

「えいッ!」

劍道二段の腕の冴へを見てとり、〳〵軍刀を杖によろ〳〵とたちあがつた。

額の傷からは、タラ〳〵とちが流れ出した。をりから、霧の間を通して、一團の敵兵が銃劍や、青龍刀をふりかざして、みかの陣地に突入して來るすがたが見えた。

「うむ、小癪なッ……」

中尉は身の重傷もわすれたかのやうに、ツツツと岡をはしつて敵の眞只中にをどりこんだ。

「えいッ!」

ドカアーン……

ドカアーン……

四發の八ゝ榴彈が、殆ど同時に中尉の身邊で爆發した。

「あッ、しまつた!」

古川軍そうは、土砂をくぐつてはしり出した。中尉は、軍刀をにぎつたまゝたふれてゐる。

「隊長どの!」

軍そうは中尉を抱きおこしたが、殘念にも一あしおそかつた! 中尉は、全身に砲彈の破片をうけ、もうまつたくこときれてゐるのです。

「オーイ、みんな! 隊長どのが戰しされ ぞ!」

軍そうがさけんだ。

「えッ」

みんなかけつけて來て

「隊長どの! 隊長どの!」

と、さけんでとりすがつた。

「隊長どのはなあ、さつき重傷をおはれたんだ。だから俺が多くの來る四地に、おひつさげたまゝ、敵の方のしたいの中に仁王だちになつてゐる。壯烈、鬼神の如きそのすがた……

「あッ、隊長だ!」

「部……」

下は驚いてさけんだ

そして古川軍そうをはじめ四五人がやにはにかけつけようとした。と、その瞬間だつた。